

## 川俣処理場の思い

元大阪府下水道課長

木村 淳弘

私は、まだ新しい第二寝屋川の堤防の上に立っています。西の方に国鉄の城東貨物線が見えます。手前には葦の繁った湿地帯が広がっています。その北側には国鉄の片町線の電車基地があります。そして、周りにはのどかな田園地帯が広がっています。ところどころ集落も見えます。振り返って東をみると、

遠くに生駒山が見えます。空にはひばりがさえざっています。時折、城東貨物線を蒸気機関車が煙を吐きながら貨物列車を引きながら通りすぎて行きます。貨物列車が通りすぎた後は、鳥のさえざり以外に何もなく、静かな田園風景です。



川俣処理場予定地

「ここは、処理場用地として最適だな。」私はつぶやきました。

時は昭和40年春、場所は布施市（今の東大阪市）川俣地区。そして、私は寝屋川南部流域下水道の川俣処理場の位置を決定しました。

しかし、その後、法決定には問題が生じました。この川俣地区には区画整理事業の計画があったのです。

当時の建設省の都市計画課は区画整理区域内に下水処理場を建設することに強く反対しました。私は、昭和41年に寝屋川南部流域下水道の都市計画決定の申請書を持って上京し、建設省の都市計画課で立ち往生してしまいました。どうしても決着がありません。

建設省の都市計画課と大阪府の計画課と何回も協議が行われました。

既に、昭和41年度に寝屋川南部流域下水道を着手することとして、予算化もされており、中止するわけにもいきません。

結局、建設省と大阪府の折衷案として、流域下水道計画から処理場をはずし、とりあえず都市計画法の計画決定を行うこととなりました。前代未聞の処理場のない流域下水道の誕生です。

このようにして寝屋川南部流域下水道は昭和41年度に着手されました。

東京から帰ってきた私を見て、当時の課長が私の上司の係長に「木村君なんか上京さすからこんなことになるのだ」と言って怒っているのを聞き、泣きたい思いになりました。

次の年、昭和42年、改めて区画整理と調整し、寝屋川南部流域下水道川俣処理場が計画決定されました。

その後、私は大阪府南部広域下水道建設事務所の小阪工区に転勤になり、川俣処理場の1期工事を担当することとなりました。

幾つかの事故、設計ミスによる構造変更、そして、昭和47年の大東水害などを経験しながら昭和47年11月に無事供用開始を迎えることが出来ました。

川俣処理場の位置決定から、計画、設計、施工、供用開始と経験させて頂いたことは、その後の私の下水道技術者として、そして土木技術者としての大きな力になっていたように思います。

今の川俣処理場は屋上が公園となり、公園の池には毎年カルガモがきて子供を育てています。当時の城東貨物線は電化、複線化、高架化されJRの大阪外環状線として通勤電車が行き来しています。処理場の南には大阪から奈良に行く高速道路 第二阪奈道路が通り、その地下には地下鉄の中央線がとおり、近くには地下鉄の駅も出来ています。



**最近の川俣処理場**

処理場の周辺は有名な東大阪市の中小企業の工場地帯となり、処理場のそばまで工場が押し寄せています。

高速道路と鉄道、工場の騒音、そしてそのホコリ、騒然とした区域の中に川俣処理場があります。昔の田園風景は見る影もありません。

私は毎年、ボランティア活動として、大阪府が行う下水道PRの出前講座に参加し、川俣処理場の周辺の小学校に行っています。そして、小学生を案内して川俣処理場を訪れています。

川俣処理場の柱、壁、窓、訪れるたびに昔の思い出が湧いてきます。私にとっても、下水道技術者として川俣処理場は良い教材であったのです。

2009年2月1日